

平成27年3月10日
バンコク産業情報センター
中野 秀紀

一般調査報告書

伸びゆくインド経済とビジネスチャンスについて

当センターでは、すでに2014年11月に一般調査報告書において、インド市場をマクロにとらえて、そのポテンシャルについてレポートをしました。

一方、今回は2015年3月に当センターがインドを訪れた結果を踏まえ、伸びゆくインド経済をいかに愛知県企業の発展につながるかの観点でレポートしたいと思います。

公益財団法人あいち産業振興機構が発表した「2013年における愛知県内企業の海外事業活動」調査によれば、愛知県に本社を置く1,513企業がアジアへ進出し、うちインドへは64企業98拠点の進出が確認されています。

主な内訳は、輸送機器が19社、生産用機器が8社、卸・小売業が8社、窯業・土石が5社、業務用機器が4社、金属製品が4社、ゴム・プラスチック製品が3社、運輸・郵便業が3社となっています。

製造業における完成品製造、及び一次下請け企業が中心となっています。

他の東南アジアと比べて、飲食等のサービス業の進出は進んでいません。

東南アジアで最も企業進出が多いタイにおいては2005年頃を境に進出企業の日系企業同士の競争がし烈になり、販路の新規開拓の相談は当センターへも数多く寄せられています。

一方、インドへ進出している愛知県企業を訪問すると、東南アジアまでは仕入れ先が進出してくれるがインドへはなかなか来てくれない、との声がしばしば聞こえます。

インドへの企業進出は夜明け前というのが現状で、中国と違い、国の発展が比較的緩やかであり自動車産業を中心にすぐに計画通りの結果が出ている状況ではありませんが、今後の市場発展は明らかであり、世界の完成車メーカー、一次下請け企業がこぞって進出し、経済の発展、ビジネスチャンスを虎視眈々と待ちながら準備を進めています。

東南アジアにおいても、まずは製造業が進出し、その後、現地国民、駐在員等をターゲットとした様々なサービス業が進出しています。

既進出店舗の競争も激しいバンコクは言うまでもなく、インドネシアでも愛知県からの飲食業の出店が始まっており、バンコクの次としてインドネシアへの進出相談も寄せられています。

1 伸び行くインド自動車市場とビジネスチャンス

◇自動車販売台数予測（2019、2024 年）千台

国名	2019 年	2024 年
中国	29,495	34,055
米国	17,500	18,500
インド	7,000	13,000
A S E A N	4,795	6,753
ブラジル	5,100	5,300
日本	4,800	4,700
ロシア	3,850	4,500

2014 年の通商白書によれば、インド市場は、2019 年には 700 万、2024 年には 1,300 万台規模と、日本、ブラジルを追い抜いて世界第 3 位の市場となることが予測されています。

インドの自動車業界団体からは、日本から軽量化に関する分野（材料、素材）、自動車エレクトロニクス分野、精密加工（ギア等）に進出をして欲しいとのコメントが当センターに寄せられています。

また、2015 年 11 月をめぐりにインド自動車部品工業会主催の展示会、ビジネスマッチングが名古屋でも予定されているそうです。

詳細は、<http://www.indiaautopartsshow.com/>をご覧ください。

このイベントに限らず、今後、愛知県でもモディ首相が掲げるメイクインインディアのポリシーに呼応したインド関係のセミナーが活発化されるようです。

日系企業の進出がタイなど東南アジアに比べて鈍かった経緯から、おのずと日系完成車メーカー等による現地ローカル企業からの調達が多くなっています。

一方、今後の自動車技術の高度化、具体的には燃費、安全といった観点からさらなる高度なパーツが必要とされており、現地進出済み日系企業、インド自動車産業双方から、これらの高度化に貢献する日系企業の進出、連携が今まさに求められている状況です。

是非、進出を検討される愛知県企業の方は当センターまでご連絡ください。

2 製造業強化のためのインド I T パワーの活用

周知のとおり、インドは高度で豊富な理系人材を背景とした、I T 産業が盛んです。有名なところでは、インフォシス、W I P R O など大手 I T 企業です。

同種の企業の中には、製造業における設計開発におけるビジネスアウトソーシングを得意としている企業もあり、東海地方の大手製造業も一部の開発プロセスをこれらの企業へ委託しています。

自動車のモデル開発では、一般に以下のステップがあります。

「商品企画・基本設計」⇒「競合製品分析」⇒「サプライヤ選定」⇒「設計構想」

⇒「詳細設計(図面起こし)」⇒「C A E *」⇒「試作」⇒「試験」⇒「認証」
⇒「量産」

* C A E : Computer Aided Engineering : I Tを活用した設計開発工程を支援する仕組構築

上記のうち、「商品企画・基本設計」と「量産」以外のプロセスはすべてアウトソーシングが（レベルの差はあれ）可能であり、自社開発リソースの補てん、新興国向けの低コスト製品の開発といった観点でアウトソーシングを活用すると有効だとインド I T 業界は P R します。

また、中堅、中小企業、製造業以外での I T 企業の活用法として、必要な社内 I T システムを自前で構築・運営するのではなく、必要なサービスを必要なだけ I T 企業のシステムへアクセスすることにより提供されることで大幅なコストダウンを行えるサービスも売りにしています。

3 インド中間層の人口増加に対応した参入可能性

年間世帯所得 25 万ルピー（約 50 万円相当）の中間層が、今後大都市だけでなく中堅都市においても出現し始めることが予測されています。

デリー、ムンバイ、カルカッタ、チェンナイ、バンガロールといった 8 大都市では、

2025 年には 1,300 万世帯 (2012 年 540 万世帯)、マイスール、チャンディーガル、ラクナウといった 55 の中堅都市においても 2025 年には 1,300 万世帯 (2012 年 470 万世帯) といった具合に中間層が大幅に増加することが見込まれています。さらには上記未満の人口の都市においても 2025 年には 3,700 万世帯が中間層 (2012 年 1,300 万世帯) となるなど大幅に増加する予測が出されています。(N R I インド資料)

上記のような中間層の拡大が予測されるなど、伸び行くインド経済ですが、具体的にどのような分野が今後有望なのでしょう？この点について、インドビジネスに関わり、現在、バンガロールにおいて、日本からの企業進出支援、企業視察支援を行う Riemasala Pvt. Ltd 社の後藤社長にお聞きしました。なお、同社長は鹿児島県主催のインド進出セミナーにてジェトロとともに講師を務められています。

Q 1 : 現地で生活をされ、多くのビジネスの立ち上げ支援をなされたご経験、現場感覚から、こういった分野が今後伸びてくるのでしょうか？

⇒インド先端医療分野をサポートするような医療器具・検査機器等、人口増加による廃棄物が多いためリサイクル分野、あるいは現在、慢性的な生活習慣病の蔓延による健康志向が目立っております。特に富裕層中心にブームとなっている健康的な日本食などは特に可能性があると思われれますが、日本が高度経済成長時に欲した製品・サービスは十分に可能性があると思われれます。しかし日本の製品をそのままインドに取り込むことは難しく、インド人嗜好をよく熟知してインド化し

た製品に日本も取り組むべきだと思います。

とりわけ、現在は、ニューヨークなどで人気の欧米サイズされた高級日本食店が米国などから続々上陸しており流行っているようです。

その他、日本食材などの味噌、しょうゆなど調味料も可能性があるのではないのでしょうか。味付けについては、インド人向けにどういった味が現地で受けるのか十分にリサーチする必要があります。必ずしもオリジナルの味にこだわらないことが大切なようです。

また輸入食材に関しては、インドにおいての現地生産という方法も可能性があります。日本人がはじめたうどん、ラーメンの製麺会社がバンガロールにあります。菜食者が6割を占めるインドですので、その点の配慮も必要です。

また、インド人の富裕層はジャンボジェット機やマハラジャ宮殿を貸し切るなど結婚式に派手な演出を好みますので、日本の一昔前の派手な結婚式スタイルはポテンシャルがあるため、現地サイズして提供すると市場が開ける可能性があります。これもあくまで現地サイズするなど徹底した調査を前提とします。

Q2：インドビジネスでのポイントは何でしょうか？

そもそもインドでは数が少ない日系コンサルタントですが、親身になって聞いてくれ、同じ目線で一緒にやってくれる会社を探すことです。

しばしば、コンサル、現地パートナーとのコミュニケーション不足から、契約書等を十分にチェックせずにサインした結果、中堅企業においても莫大な負債を抱えて事業が頓挫する事例も散見されます。

特にインドビジネスでは、相手の話を十分に聞くこと、自分の考えを明確に述べ、努めて深くコミュニケーションすることが必要です。日本人は旺盛な会話を好むインド人と接した場合、すごく大人しいイメージです。バイタリティが必要です。

4 インド渡航の注意点

当センターが渡航した際、以下の点について注意が必要と思われたため共有します。

1. 入国審査、出国審査でパスポートへスタンプが押ししてあるか確認しましょう。筆者もスタンプを押されなかったことがあります。
2. 機内持ち込み荷物にはX線検査済みのスタンプ押印が必要です。機内持ち込み荷物は、X線検査が終わってれば荷物タグにスタンプを押されます。搭乗までにそのスタンプを確認されます。必ず手荷物の数だけタグを航空会社のチェックインカウンターで入手してください。そして、搭乗するまでタグが切れないように注意してください。床にたくさんのタグが落ちているのが散見され、タグが切れればその荷物は機内への持ち込みが拒否されます。(すぐに破損するタグです)最初のステップからやり直しを要求された例を聞いています。
3. 路上での事故、争いが多いため、時間に余裕をもった行程としましょう。

運転手同士の争いで車線がふさがれ渋滞が発生、追突事故で車線規制など、短期の出張でも出くわすことはしばしばです。

今後も当センターでは、現地の生の情報を発信してまいります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。